JASE
現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY
2024年
No.154
2024年1月15日（毎月15日）発行
日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3冨山房ビル５階 Tel.03-5801-6788 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 小澤洋美
© JASE. 2024 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第26回WAS2023トルコ･アンタルヤ大会報告 ･･･ 1
わたしたちの性教育アクション⑩･････････････ 8
多様な性のゆくえ㉛･････････････････････ 9
出会いは世界を広げていく⑩･････････････････ 10
今月のブックガイド････････････････････････ 11
JASEインフォメーション ･･･････････････････ 12

◉第26 回WAS2023 トルコ・アンタルヤ大会報告

BRIDGING THE GAPS
（性のギャップをつなぐ）

公益法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員
WAS（性の健康世界学会）アドバイザリーボードメンバー
早乙女 智子

いざ、アンタルヤへ

イスタンブールで乗り換えて、アンタルヤ空港へ。初めてのトルコは、地中海の海岸線が日本と同じ松並木で違和感がなく、人も街も私たちを温かく迎えてくれました。

2021 年の WAS（性の健康世界学会）は、現 WAS 会長の Elna Rudolph が大会長で、南アフリカで初のアフリカ開催でした。しかし、残念ながら COVID-19 の渦中にあり、完全オンライン開催だったので、今回の参加者は４年ぶりにリアルで顔を合わせることができ、あちらこちらでハグの嵐が見られました。メイン会場のプログラムはオンラインでも参加できるようになっており、時代の変化を感じます。

会場のミラージュパークリゾートホテルは、アンタ

ルヤ空港から 55km、アンタルヤの街中を抜けたリゾート地にあり、地中海と空とすぐ後ろに迫る美しい山で隔離されたような環境でした。朝から夜まで性科学漬けの日々は、知ること、考えることの楽しさと、食事の心配や日常から解放された素敵な日々となりました。完璧なリゾートホテルで、３食食べ放題、午前午後のコーヒーブレイクでは、チャイやコーヒー、甘いデザートやパン、フルーツも食べ放題で、プール、プライベートビーチ、サウナ、ハンマーム（トルコ風

呂)、ディスコなど、隔離された空間で地中海リゾートも堪能しました。

アドバイザリーボードメンバー(AC)として

私は、WASのACとして、大会(11月2日～5日)前日の11月1日の会議から出席しました。ACは、4年ごとに選挙で選ばれ、私の任期は2021～25年です。選挙に当たっては、地域性（5大陸からまんべんなく)、性別（偏らない)、年齢などを考慮して、単純な投票順ではなく差し替えも起こるので、当選ライン上ではわずかの差で当落が変わることがあります。後継ということではありませんが、私の前は東優子先生、そしてその前は大川玲子先生がACメンバーでした。ACメンバーは選挙で選ばれた17名で、現在、アジアではインドのJeyarani,Kamarajさんと私がACメンバーです。その他に、前の会長や元ACメンバーなどがご意見番として運営しています。Kamarajさんはご夫妻で性科学に貢献されていますが、ジェンダーバランスもあり、奥様のほうがACメンバーです。

WASの会長は、2021年の大会長のElna Rudolphで、初のアフリカ開催の大会長でした。フランスのAlain Giamiが副会長としてしっかりと会長を支えています。

ACでは2か月ごとにオンライン会議をしていて、日本時間では22時からときには25時頃までかかり、体力的にきついこともありますが、リアル会議だけだったときは、毎回会議の現場に行かなければならなくて大変だったと聞いています。11月1日の会議ではWASの運営、財務、それぞれの委員会報告などが行われました。

大会1日目（11月2日）の午後は、性科学専門家養成委員会のクローズドミーティング。招待された約50人のうち、日本からはPES（Professional Education for Sexology: 性科学専門教育委員会）委員の私とCSE（Committee of Sexual Education：性教育委員会）委員の高橋幸子さん（埼玉医科大学）が参加しました。「性の健康が目的で、性科学は道具だ！（Sexual Health is the GOAL, Sexology is the TOOL)」というスローガンのもとで、私も関わっているGLOPES（Global Professional Education of Sexuality）サーベイやPLISSIT（Permission-Limited Information-Specific Suggestions- intensive Therapy：性的問題への一般医療者の段階的関与）モデル、SAR（Sexual Attitude Reassessment）など、性教育と性の健康推進を分けて、治療・教育・研究の3本柱を確立して標準化していくシステムが、先進的な教育が整っているオーストラリア、スイス、南アフリカなどから報告され、共有されました。新しい取り組みに期待が高まります。

開会式ではトルコの伝統楽器カーヌンの演奏も

大会の主なプログラム

今回のWASは62か国から約500人の参加があり、日本からは約30名が参加しました。毎回、日本からの参加者は多いのですが、参加者数ではアメリカ、現地トルコに次いで3位です。ポスター発表が6名、オーラル発表8名でした。

セクシュアル・ジャスティス

大会2日目（11月3日）は、Sexual Justiceのシンポジウム。健康や権利、快楽に加えてこれからは「正義」が重要だということが語られ、セクシュアル・ジャスティス宣言の発表に向けて草稿を練っています。社会正義や、環境正義など様々なジャスティスとも関連して性の健康を語るには、個人単位の側面もあれば社会的なムーブメントとしても重要で、そのあたりの整合性に時間がかかりそうです。

正義の概念に多様性を持たせるわけでもなく、画一的な概念でもない「宣言」をまとめるところに論理的な破綻があるのかもしれない、とも思います。とはいえ、まだ性の多様性や快楽を十分に語れていない社会

大会長 Mehmet Sungur の講演

筆者、ガラディナーには和服で（WAS 提供）

において、誰も取り残さない取り組みのためには「正義」の概念を整理する必要があると思いました。

2019 年ナイロビで開催された ICPD（国際人口開発会議）25 では､「セクシュアル＆リプロダクティブ・ジャスティス（性と生殖の正義）とは、子どもを持つ権利、持たない権利、安全で持続可能な環境で子どもを育てる権利、性の自律と性の自由を得る権利などを含む包括的な概念である。性と生殖に関する正義の実現には、社会における力の不平等な分配に挑戦し、疎外と排除を終わらせることが必要である。

このフレームワークは、ナイロビ公約と持続可能な開発目標（SDGs）の実施と説明責任を強化する上で極めて重要であり、コミュニティ、国、地域、そして世界レベルでの進歩を阻む重複する構造的障壁にまで分析を広げるものである。」としています。WAS では、もう少し生殖から離れた個人の人権を中心とした宣言になるものと思われます。

GLOPESシンポジウム

WAS のなかの PES（Professional Education for Sexology： 性科学専門家教育委員会）チームでは、国際標準の性科学専門家養成を目指しています。PES 委員会の職務権限は、１）性科学専門教育の会計報告書を作成する、２）PES 委員会が WAS に認定プロセスの提供または参加を勧めるかどうかを決定する、３）性科学における専門職前教育における WAS 認定の枠組みを提示する、となっています。

日本のように、性科学の学部や学科がない国もありますし、すでにその制度が整っている国もあります。今回は、ノルウェーの Agder 大学の Tor-Ivar Karlsen 教授の協力を得て、PES 委員会で GLOPES（Global Professional Education for Sexology：性科学専門家教育の国際調査）スタディを行い、その結果を発表しました。調査項目は、専門家教育を行っているか、どの段階の教育を行っているか、資格や、学習時間、内容、国家資格取得の有無などの項目です。

全体では発表時点で 59 か国、277 名の回答がありました。北アメリカは USA とカナダで 100％の回答率でしたが、次いで南アメリカの 18 ／ 33 か国（54.5％）の回答率が高く、アジアは 4 ／ 48 か国（8.3％）と最も回答が少ない地域という結果になりました。

調査はまだ完全には締め切っていないので回答を促したいと思いますが、会場のアジアからの参加者に聞いた感触では、性科学に関しては、アジア各国ではそもそも系統だった国家的な公教育がなされていないようでした。私は、PES シンポジウムで、GLOPES スタディのアジアの結果について報告しました。他の地域で進んでいる性科学専門家教育のカリキュラムを見ると、羨ましいと思う一方で、日本で取り組むには海外留学経験のある人材に期待するしかないなと思います。

日本性科学会でもセックスセラピスト、セックスカウンセラーの認定制度の見直しをしているので参考になります。自国で性科学が発展することで、より一般的に性科学が学問として受け入れられ、性の健康や権利の概念が浸透するだろうと思うと、日本での性科学学部や、性科学学科、あるいは性科学大学ができたらいいなと夢が再び膨らみました。この調査が後押しになったらいいなと思います。

いわゆるプレコンセプションケアなど

担当のシンポジウムのほかに、座長を担当したセッションと、モデレーターをしたセッションについて報告します。

座長をしたシンポジウムは、オランダの Woet Gi-

anotten らのシンポジウムで、親になったときのフレームワーク、プレコンセプションの性の健康、困難を抱えた妊婦のセクシュアリティ、そして産後のセクシュアリティなど、私の関心事でもある課題でした。

Gianotten 先生とは、以前にもお話ししたことがあり、同じ産婦人科医のバックグラウンドでもあり、共通の認識をしていると自覚しています。もう一人の演者、Gabrijela Simetinger 先生はスロベニアの産婦人科医で、性機能障害の治療も他から持ち込まれるとおっしゃっており、日本とおなじような課題である妊娠中のセックスについての医師の態度や、切迫早産とセックスなど、医師が過度に不安がっていることによって、女性のセクシュアリティがないがしろにされているという指摘をされており、講演中、激しく同意した私の首はヘドバンのように振られっぱなしでした。

CHILDREN（子ども）セッション

モデレーターを担当したセッションでは、一人 10 分と持ち時間が短い中、演者が現れず順番が予定外となるなど、はらはらしながらの仕切りでした。ポルノや性教育など、国は違っても課題は共通だと感じました。

スウェーデンからの Robin Bjorkas さんの報告では、薬物使用と若者の性の健康というテーマで、さすがに国の文化の違いを見せつけられました。日本からは、ネットフリックスの動画「17.3」などでご活躍の中島梨乃さん（一橋大学院生）の発表もありました。若手の力のこもった発表に元気づけられました。今後のさらなる活躍に期待します。

祝！抄録賞、そしてポスターセッション

閉会式で、obstruct award 抄録賞の発表があり、日本から参加のポスター発表「Autistic tendencies in Japanese adults with gender identity disorder. 日本人成人の性同一性障害における自閉傾向」で、出水ゆりあさん（お茶の水女子大学）が 7 人の中に選ばれ受賞されました。最終日の最後で一気にお祝いムードが高まりました。こんなサプライズが待っているとは思いませんでした。指導教官の石丸径一郎先生も嬉しそうでした。

その他には、以下の発表がありました（敬称略）。

「女性の性機能治療の 30 年」を発表する大川玲子先生（WAS 提供）

- 砂川芽吹「Camouflaging in middle-aged autistic women: A qualitative study　中年自閉症女性のカモフラージュ：質的研究」
- 林雄亮「Sexual behavior of Japanese Youth: Results of the Repeated Nationwide Surveys　日本の青少年の性行動：全国継続調査の結果」
- 星野進「How pansexual people realize their pansexuality　パンセクシュアルの人たちは、いかにして自分のパンセクシュアル性を自覚するのか」
- 西岡笑子「Impact of a comprehensive sex education program using “Mana Book” level 2 teaching materials based on the International Technical Guidance on Sexuality Education　性教育に関する国際技術指導に基づく『まなブック』レベル 2 教材を用いた包括的性教育プログラムの影響」
- Mako Inada「Implementation and Effect of Ibasho for LGBTQ students and allies　LGBTQ 学生とアライのための『居場所』の実施と効果」

口頭発表は割愛しますが、大川玲子先生の性被害者支援の演題、SEC シンポジウムの高橋幸子先生のご発表、キムハリムさん、羽渕一代先生、此下千晶さん、日本に留学中の Xie Ling Xie さん、明治大学の平山満紀先生の日本のメディアに関するご研究など、日本人の貢献も目立ちました。

Gold Medal Lecture

前々回の 2019 年のメキシコシティーでは、日本人で 4 人目として大川玲子先生が受賞されたゴールドメダルですが、今年は、3 人が受賞しました。

USA の Debra Haffner「Looking Forward, Looking Back: Reflection on A Half Century As A Sex-

ologist 前を見据えて、振り返る：性科学者としての半世紀を振り返って」

スイスの Venkatraman Chandra-Mouli「Three Decades Post- ICPD：lessons from‘Positive Deviant Countries’in the Global South on Elevating Schools-based Sexuality Education ICPD 後 30 年：学校を基盤としたセクシュアリティ教育の向上に関する、グローバル・サウスの『積極的逸脱国』からの教訓」

そして、アルゼンチンの Cristina Friedman「Happiness and Sexuality: An obligatory proposal ? Let's open the debate 幸福とセクシュアリティ：義務的な提案？議論を始めよう」

私は疲労とおなかの調子が悪く、どれも聞き逃してしまいましたが、若手の参加者の方には特に勉強になったことと思います。

Sexual Justice の草稿

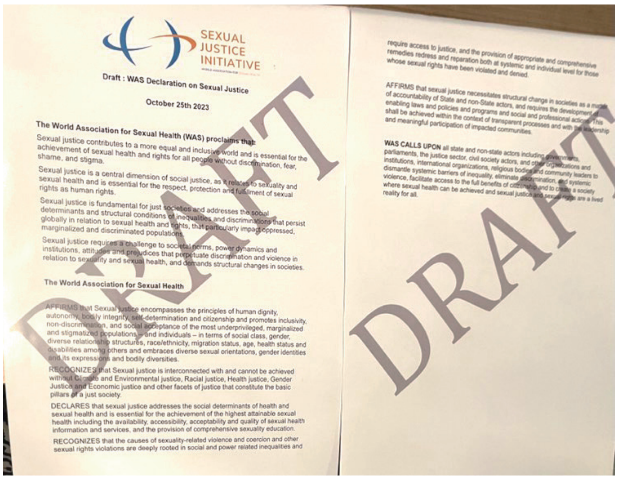
ご意見を頂きたいということもあるので、2023 年 10 月 25 日現在の Sexual Justice の草稿の内容を紹介します。

〔性の健康世界学会はこう宣言する：性的正義（セクシュアル・ジャスティス）は、より平等で包括的な世界に貢献し、差別、恐れ、恥、偏見のない、すべての人々のセクシュアル・ヘルスと権利の達成に不可欠である。

性的正義は、セクシュアリティと性の健康に関連する社会正義の中心的側面であり、人権としての性的権利を尊重し、保護し、実現するために不可欠である。（以下略）〕

Sexual Justice に関しては、まず、様々な方とこのテーマで語ることが重要だと思います。日本国内でも性に関する autonomy（自律性）は、LGBTQ だけでなく、男性も女性も守られていない状況があると思います。声を上げていくこと、議論する土壌が必要です。

開会前のシンポジウムでは性の正義について語られました。また、Ester Corona にも相談しましたが日本の性教育の遅れ、日本の性科学教育の遅れは、文部科学省や厚生労働省に訴えるべきことだと言われました。論理的に性教育のメリットを組み立てて陳情に繋げたり、社会の風潮を変えていけるようにしたいと思います。



Sexual Justice の草稿

ABORTION（中絶）のセッション

今回は WAS には珍しく中絶に関するセッションがありました。WoW（ウーマンオンウエブ）の活動家が送り込まれてきたようです。WoW の創始者の Rebecca Gomparts は、最も影響力のある女性 100 人にも選ばれた女性で、８月に日本に来た時にも会いました。日本でもようやく承認使用され始めた経口中絶薬ですが、まだ世界には中絶そのものが禁止されている国もあります。

Justice や Bodily Autonomy として FGM（女性性器切除）についての報告もありました。これからは、文化の違いで済まされてきた性や身体への第三者からの侵襲的行為が、Rights、Pleasure、そして Justice の概念を世界中で共有することで、徐々に変わっていくことと思います。

南アフリカの Sumayya Ebrahim の産科暴力の話もありました。日本ではまだポピュラーではありませんが、不必要な会陰切開や帝王切開など、産科暴力につながる課題です。彼女の発表が終わって、話が盛り上がりました。今後も連携していきたいと思います。

プログラム全体について

全体のテーマが Bridging the Gaps「性のギャップをつなぐ」でもあり、アドバイサリーボード会議の冒頭は、コネクションかリレーションシップか、が議論になりました。言葉の違いは概念の違いですから、どちらでもいいというわけにはいきません。リレーションシップは個人の関係性という意味合いが強く、コ

ネクションは人や物の因果関係などに使われますが、WASが目指しているのは、人と人ももちろんですが、性の権利宣言などをよりグローバルに広げていく国家や組織への働きかけですから、コネクションなのかな、と感じました。

今回は、Health and Rights（健康と権利）、2019年のPleasure（快楽）宣言について、Justice（正義、公平）が語られましたが、性だけでなく様々な領域でJustice が課題になっています。DRAFT（草稿）は出ましたがまだ概念が十分に共有されていないので、宣言として出せるのは2年後のWAS開催時の2025年になりそうです。ちなみに、次回のAOFS（Asia Oceania Federation for Sexology アジアオセアニア性科学会）は、2024年オーストラリアで開催予定です。

次期のWASには、オーストラリアとインドが名乗りを上げましたが、決定は持ち越しとなりました。オーストラリアでAOFSとWASを2年続けて開催するつもりなのかしらと心配ですが、そう言うと、じゃあ、日本で！ と多くの参加者から期待されているので、うかつなことは言えません。でも、いつか日本で開催し、WASの仲間をもてなすことができたらいいなという想いはあります。

閉会式では演題数などの総括が発表されました。62か国からの参加者、414演題の応募、26の口頭発表セッション、４つのポスターセッションで71のポスター発表、16のワークショップ、28の招請基調講演、35のシンポジウム、１つのラウンドテーブル、３つの招請講演、そして３人のゴールドメダル受賞講演でした。

６つの会場で、最終日は15時からの閉会式で16時には終了しましたが、連日朝８時から夜８時まで、消化しきれないほどの情報量でした。またコーヒーブレイクでも、話が尽きず、うっかり次のセッションを聞き逃すこともありました。

学会運営にはさほど貢献できませんでしたが、座長やモデレーターを引き受け、それなりの緊張感をもってまとめ役をさせて頂きました。どの演題も力作で、本当に限られた時間で理解してもらうにも技術や工夫が求められると改めて思います。

今回の大会長Mehmet Sungurはトルコのマルマラ大学医学部精神科教授で、さまざまな国で専門家の養成に携わり、認知行動療法の分野、特にCBTと性科学との接点における貢献は傑出しています。お人柄が素敵で、性の健康デーなどのイベント報告で、周りに慕われている様子が伺えたので、Zoomでしか会っていませんでしたが、実際本当に懐の深い方で、美声も披露して下さいました。

日本からの参加者たちと

おわりに

いくつかの奇跡的な間違いが重なって、なんと人生初、帰りの飛行機に乗り遅れ、思いがけず２日間の観光時間ができ、JASEの皆様と同じ飛行機になりました。

WASやAOFSのツアー設定はJFS（日本性科学連合）が担当してくださっていますが、各自ばらばらに参加する中で、現地をまとめていただいたJFSやJASE（日本性教育協会）に感謝します。２日目には、日本からの参加者に呼びかけて懇親会を開いて下さり、交流を深めることができました。

私は、まだACとしての仕事も十分にできていませんが、何をすべきなのか今回少し学ぶことができました。忘れないうちに、参加者での振り返りの会ができたらいいなと思います。

そういうわけでアンタルヤ市内で１泊のおまけ。リゾートホテル滞在も夢のような日々でしたが、アンタルヤの街中は新旧の建物が入り交じり、住みたくなるような素敵な街でした。日に５回、聞こえてくるアザーンはイスラム圏にいることを思い知らされますが、それはそれで慣れると時計代わりで便利に思えます。一人なのもあり、夜は早めにホテルに戻りましたが、夜の静寂は見事でした。日本では、朝５時台でも電車

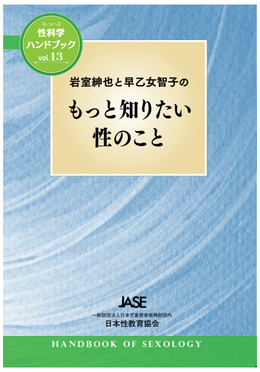
日本からの参加者の懇親会で

に人がいて、終電まで、あるいは夜中まで誰かが起きて外に居たりしますが、夜中は人っ子一人歩いていないし、車の音も聞こえませんでした。

トルコは地中海海岸に位置し、ボスポラス海峡が隔てるアジアとヨーロッパを結ぶ交通の要所でもあり、文化的な交流と多様性の拠点と言われますが、それを実感します。2022年には世界から5000万人以上が訪れ、世界第3位の観光市場となっているそうです。You Tubeでみる、受け取れそうで受け取れないトルコアイスパフォーマンスも体験しました。アイス売りのおじさんとハグをし、笑顔が可愛いとほっぺをつままれ、幸せな気持ちになりました。

2023年はトルコ共和国としての建国100周年に当たっています。そんな記念すべき大事な年にこのような盛大なWASの国際会議が無事に終了して本当によかったと思います。世界ではまだ紛争や戦争が終わっていないなか、私たちにできることは、自分たちだけでも争いごとを減らしていくことなのかもしれません。

参加者から、誰もが誰も否定しない学会の雰囲気の心地良さを味わったとの感想を聞くことができました。終わりに近づくにつれて忍び寄る寂寥感に対して、寂しいね、と告げた私に、私が2009年に初参加したWASで知り合った今や副会長のAlain Giamiが、別れ際に笑ってC'est la vie.（それが人生さ）と言いました。また近いうちにどこかで会いましょう！



性科学ハンドブック Vol.13　　好評発売中！

岩室紳也と早乙女智子の
もっと知りたい性のこと

岩室紳也・早乙女智子著　　◆Ａ５判：138頁　頒価700円

『現代性教育研究ジャーナル』2014年4月号～2017年3月号に連載した「もっと知りたい女子の性／もっと知りたい男子の性」に、加筆・訂正して再構成したものです。

主な内容

part 1　多様な性／「性」を科学する難しさ／女は女として生まれない／性別違和／ジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ　ほか
part 2　女性の性／膣VAGINAはくぼみである／女子もします！　マスターベーション／人工妊娠中絶と女性の身体権　ほか
part 3　男性の性／「包茎」を科学する／男子はおちんちんで育つ／「男」は環境で育つ性／男性の性機能って何？　ほか

著者プロフィール

岩室　紳也／泌尿器科医。ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）代表。AIDS 文化フォーラム in 横浜運営委員。
早乙女智子／産婦人科医。公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員、日本性科学会副理事長。セックスセラピスト。

既刊〈性科学ハンドブック〉
☆性科学ハンドブック Vol.11『思春期の性衝動～男の子の性を考える～』A5判・78頁 400円
☆性科学ハンドブック Vol.12『腐女子文化のセクシュアリティ』A5判・96頁 500円

※送料等は、ホームページを参照してください。
◆ JASE ホームページ https：//www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html からお申し込みいただけます。または、Email info_jase@faje.or.jp
TEL 03-5801-6788　FAX 03-5801-6677

わたしたちの性教育アクション

#10

若い世代にこそ重要な SRHR の知識をどう届けるか

公益財団法人ジョイセフ

2023 年度　文京区 I LADY. ピア・アクティビストの皆さん

SRHR の知識を届ける

公益財団法人ジョイセフは、1968 年から 40 か国以上で、SRHR（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツ：性と生殖に関する健康と権利）が一人でも多くの方に届くようにプロジェクトを展開してきました。

それらプロジェクトの中で、若年妊娠が大きな課題なのは、言うまでもありません。妊産婦死亡の 10% は、15 ～ 19 歳の若者であり、主にサハラ以南のアフリカやアジアの大国での若者の妊産婦死亡が世界全体の 82%を占めています(1)。

また、低中所得国における 15 ～ 19 歳妊娠の約 2100 万件のうち、その半数は意図していない妊娠である(2) ということも注視しなければならないデータです。若い世代へ、自身やパートナーを意図しない妊娠から守る方法を含む SRHR の知識を届けるのが、いかに重要なのかが分かります。

ジョイセフが展開する I LADY. プロジェクトとは

日本の若者はどうでしょうか？　ジョイセフの講義で SRHR を学んだ学生からは「性のことは隠すべきと思っていた」とコメントをもらうことも多くありますが、様々なことが恵まれていると思われがちな日本でも、性教育の不足もあり、若者が適切な SRHR の情報にたどり着くのは、難しい現状があります。そこでジョイセフは途上国での経験を活かし、「I LADY.」というプロジェクトを展開しています。日本の若者に、SRHR についての情報を提供し、自分らしく生きるためのライフスキルを育むことを目的としています。プロジェクト名「I LADY.」は、I（自分）を主語とし、次の意味を含んだそれぞれの頭文字から成り立っています。

Love Yourself（= 自分を大切にする）
Act Yourself（= 自分から行動する）
Decide Yourself（= 自分の人生を、自分で決める）

この「I LADY.」プロジェクトの中でも先頭に立って活動しているのが文京区の I LADY. ピア・アクティビスト（以下ピア）たちです。大学が多い同区で、自治体と連携しジョイセフが展開する「Peer to Peer（若者から若者に伝える活動）」の取り組みです。

ピアは 2 日間の研修を受けます。避妊や性感染症のトピックだけでなく、ジェンダーや性の多様性、ボディイメージなど、自分のアイデンティティに関わる部分も教えられる人材になるプログラムです。

最後にはどのメッセージを誰にいつ届けるかのアクションを考えていきます。7 月から動き出したピアたちは、少しずつ活動をかたちにしてきています。

具体的な活動については、次号で報告します。

(1)（Lancet Global Health VOLUME 2, ISSUE 3,MARCH 2014: Maternal mortality in adolescents compared with women of other ages: evidence from 144 countries Dr Andrea Nove, PhD Prof Zoë Matthews, PhD Sarah Neal, PhD Alma Virginia Camacho, MD）
(2)（WHO Factsheet https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/adolescent-pregnancy）

（文責・林　未由）

公益財団法人ジョイセフ（JOICFP）
国内事業グループ　プログラム・オフィサー　林　未由

ジョイセフは、すべての人が自分の意思で生き方を選択できる世界をめざして、基本的人権である SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を推進する、日本生まれの国際協力 NGO です。
一人ひとりが自分を大切に、自分らしい人生を選べる世界へ。
ジョイセフは、女性をとりまく現実から変えていきます。
問い合わせ：ilady@joicfp.or.jp

多様な性のゆくえ

One side／No side [81]

宮田 一雄
みやた　かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

鍵を握る個別施策層

エイズ流行の比較的初期段階だった1980年代には、HIV感染が多く報告されている人口集団を「ハイリスク層」と呼ぶことが多かった。私も取材を始めた頃には疑問を感じることなく使用していたが、今となっては恥じ入るばかりである。HIVというウイルスを持つ人に「ハイリスク」のレッテルを張ることで、社会的な排除を既成事実化してしまう印象は免れない。

国際的にもそうした反省があったのか、呼び方は後にMARPS（Most At Risk Populations、リスクに直面する人たち）、Vulnerable Population（弱い立場の人たち）などと変わっていった。

ただし、Vulnerable（脆弱な）と規定してしまうと、流行に対し無力な印象も免れない。

国連合同エイズ計画（UNAIDS）の報告書などで、Vulnerable Populationに代わってKey Population（流行とその対策の鍵を握る人たち）が多用されるようになったのはこのためだろう。

国内では、エイズ対策のキーワードとして1999年にエイズ予防指針の「個別施策層」が登場している。

伝染病予防法、性病予防法、エイズ予防法の３つの法律が廃止統合して1998年に感染症法が成立した。翌99年４月に施行されたこの法律のもとで、半年後の99年10月に告示されたのがエイズ予防指針である。指針はその後もほぼ５年に１度の改正を経つつ、わが国のエイズ対策の基本方針を示す役割を果たしてきた。

ぷれいす東京NEWSの2022年11月号には、アフリカ日本協議会共同代表・国際保健ディレクター、稲場雅紀さんの『「エイズ予防指針」策定から四半世紀：画期的な「個別施策層対策」の意義』が掲載されている（欄外アドレス参照）。

稲場さんは当時、レズビアン・ゲイの人権確立を求める当事者団体『動くゲイとレズビアンの会』のメンバーとして予防指針策定の議論に関与しており、ぷれいす東京NEWSでは次のように書いている。

『その頃、既に日本のHIV感染の７割以上は、ゲイのコミュニティで発生していました。ところが、当時、政府が行っていたエイズ予防啓発は一般人口を対象としたもので、内容も、ポスターなどによる啓発にとどまっていました』

そうした中で、稲場さんらがモデルにしたのは、当時のオーストラリアのエイズ対策だった。

『オーストラリアでは、MSM（男性とセックスをする男性）、セックスワーカー、薬物使用者、先住民、外国人移民などについて、対策の鍵となる人口集団とし、これらの人々にあった方法で予防啓発や検査、ケアなどを行っていく政策がとられていました。私たちが求めているのは、まさにこうしたいわゆる「ターゲット別」の政策と、そこに各コミュニティが主体的に参加し、創意工夫をして事業を展開していく、ということでした』

世界中どこでもというわけではなかったが、海外ではすでにキーポピュレーションの考え方が定着し、コミュニティ参加を重視した政策が実践されていた。予防指針の個別施策層にも、そうした動きがいち早く取り入れられていたのである。私としては、またしても不明を恥じるばかりだが、このことは稲場さんの報告を読むまで知らなかった。

『この「個別施策層」対策は、やがて、新宿２丁目の「akta」などのコミュニティ・センターに結実することになります』と稲場さんは付け加えている。

日本のコミュニティも捨てたもんじゃないと改めて思う。21世紀に入ってからの数年間は東京、大阪など大都市圏のゲイコミュニティでHIVの感染爆発が強く懸念された時期だった。aktaや大阪のdistaなど全国のコミュニティ・センターの活動が感染爆発をなんとか抑え、治療の進歩につなげてきた。

ところが、予防指針の改定を重ねる中で、個別施策層は対策上の配慮の対象としては引き続き強調されていたものの、対策をともに担うべき主体としてとらえる視点は失われていったように見える。４回目のエイズ予防指針改正では、キーポピレーションと個別施策層が無理なくつながるようになることを期待したい。

https://ptokyo.org/column/post/15451

出会いは世界を広げていく

交流会を通して

第10回

土肥いつき DOHI ITSUKI
京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

生徒と生徒をつなぐために

前号（12 月号）には、わたしの５年間の担任の経験を書きました。当時のわたしは、クラスづくりのために、ひとりひとりの生徒とわたしがつながることが大切だと考えていました。特に、在日コリアンや部落出身の生徒と社会科学研究部（以下、社研）や隣保館の学習会などを通してしっかりとつながろうと思いました。そして、そうしたつながりをクラスの生徒たちに結びつけることで、在日コリアンや部落出身生徒のカミングアウトが可能となると考えていました。しかし、２回目の卒業生を出したあと、そうした生徒たちのカミングアウトを振り返った時、もしかしたらそれは自己満足に過ぎなかったんじゃないだろうかと考えたのです。そこで、３度目の一年生の担任を持った時、やり方を大きく変えました。

まずは、クラスの生徒たちとわたしの距離を変えることにしました。例えば、文化祭の責任者から「Ａがサボるねん」という相談があった時、それまでのわたしであれば、自ら乗り出して、サボる生徒を連れてきたりしていました。しかし、これではあくまでも「わたしとＡ」の関係にしかなりません。そこで責任者の生徒に「Ａに注意できるのは誰やと思う？」と問いかけることにしました。そして、例えばＢという生徒がＡに注意できることがわかれば、責任者の生徒に「Ｂに言ってもらい」とアドバイスすることにしました。このようにして、生徒たちとわたしの距離をほんの少し遠ざけて、生徒と生徒がつながるようにしました。すると、あまりにも距離が近すぎて俯瞰できなかったクラス全体を見渡すことができるようになりました。ただし、あまりにも距離を遠ざけてしまうと、生徒たちからクラスのメンバーとして認めてもらうことができません。そこで、学級通信を出すことを通して、教室の中に「ネタ集め」に行くことにしました。このようにして、「適度な放任と適度な介入のバランス」をとろうと考えました。

クラスづくりは、実はキャンプにおけるグループづくりとてもよく似てます。ただし、キャンプは数日間という短期決戦であることに対し、クラスづくりは１年から３年という長丁場であることが違いでしょうか。しかし、クラスという集団が生徒たちを成長させ、生徒たちの成長がクラスを成長させていくという点においては、ほとんど変わりがないと思います。そこで、担任として、キャンプにおけるカウンセラーの役割をすることにしたのです。

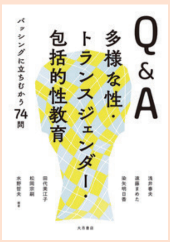
もうひとつ、学校行事をキャンプにおけるプログラムと考えました。すると、それぞれの行事にクラスづくりのための意図を持たせることができるようになりました。例えば、わたしの勤務校では遠足は年度当初に配置されています。であるならば、遠足という行事を中学校や旧クラスという古い人間関係から現在のクラスという新しい人間関係へのつくり替えを促すために使おうと思いました。遠足の行き先決めも、単に代表が前に出て多数決で決めるというスタイルではなく、班討論を経て決めるようにしました。もちろん文化祭というビッグイベントも、クラスづくりのための「仕掛け」と位置づけました。このように考えると、理不尽な校則の代表例である「服装頭髪点検」すらイベントとしての性格を与えれば、クラスづくりに使えることがわかりました。

このような「適度な放任と適度な介入」というスタンスをとることで、生徒たちは自由に動けるようになったようです。わたしの知らないところで対話を重ね、それが部落出身生徒によるカミングアウトへとつながっていきました。また、そのカミングアウトがクラスの生徒たちをより強く結びつけるものとなりました。

交流会もまた、「わたしと参加者のつながり」ではなく「参加者同士のつながり」のためにあります。そういう場におけるわたしの役割は、この時の経験によるところが大きいように思います。

では、交流会が担わなければならないこと、交流会だからできることとは何か。それを「社研」の生徒から教えてもらった気がします。そこで、次号には「社研」の活動から学んだことを書こうと思います。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド



Q&A　多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育
バッシングに立ち向かう 74 問
浅井春夫・遠藤まめた・染矢明日香・田代美江子・松岡宗嗣・水野哲夫編著
大月書店
定価 1870 円（税込）

包括的性教育を根付かせるために

話題の生成 AI に「包括的性教育」と入力してみた。スマートフォンにインストールした三種類のアプリは、いずれも中国語で返答するのみで、日本語では「包括的性教育とは何か」を答えてくれなかった。この現実をどう受け止めたらよいのだろうか。日本では、包括的性教育の認知度が低いということなのだろうか。

本書は、その「包括的性教育」を望む世論を盛り上げ、日本の学校教育や学校外教育に根づかせることを目的として編纂されたものであるといえる。

近年「LGBTQ」という言葉が、広く認知されてきているが、一方でセクシュアルマイノリティの人たちへのバッシングが様々な場面で増えている。その代表的なものが、最近とくに目立ってきているトランスジェンダー女性に対する公衆浴場や公衆トイレをめぐるバッシングである。

１章「LGBTQ とは？　トランジェンダーとは？」（全 21 問）では、LGBTQ やトランスジェンダーの解説からはじまり、性的指向、性自認について、トランスジェンダーと同性愛の違いなどの疑問に答えている。

２章「トランジェンダーをめぐるバッシングのウソ・ホント」（全 23 問）は、バッシングが激しくなっているトランジェンダーに的を絞っている。その代表的問いに次のようなものがある。

Q 03　トランスジェンダーの人はどのトイレを使うのでしょうか。「だれでもトイレ」を使えばいいのではないでしょうか。

この問には、トイレと公衆浴場の問題を当事者、施設側、法律など多方面から答えている。

Q 14　トランスジェンダー女性による女性スポーツ参加をどう考えればよいのでしょうか。

ここでは、問題点を３点あげて多面的に答えている。

３章「日本の子ども・若者の性はどんな状況にあるの？」（全 10 問）では、性の多様性や性教育について、日本の子ども・若者は現在どのような状況にあるのか、様々な調査の結果などを紹介しながら、現状と課題に答えている。

４章「包括的性教育って、どんな性教育なの？」（全 10 問）では、生成 AI が日本語で答えてくれなかった性教育の具体的な内容を、丁寧に答えてくれている。その一つに次のような Q&A がある。

Q 04　包括的性教育は日本ではおこなわれているのですか。学習指導要領との関係はどうですか。

ここでは、学習指導要領の問題、いわゆる「はどめ規定」にも触れている。この問題については、永岡桂子文部科学大臣（当時）の 2022 年 10 月 26 日の「撤廃しない」との答弁などを紹介している。しかし、本書では触れていないが、文科省は「はどめ規定の見直し」について次のような見解を示している。

〈いわゆる「はどめ規定」は、これらの発展的な内容を教えてはならないという趣旨ではなく、すべての子どもに共通に指導するべき事項ではないという趣旨であるが、この点の周知が不十分であり、趣旨が分かりにくいため、記述の仕方を改める必要がある。〉（2023 年 8 月 4 日の全国性教育研究大会での文部科学省横嶋剛健康教育調査官の基調講演より）と述べている。先述した永岡文部科学大臣の答弁と矛盾するわけではないが、今後注視したい内容ではある。

５章「世界の流れと日本の動き、これからの課題」（全 10 問）では、包括的性教育をすすめていくうえでの学校内での合意づくりや保護者、性教育に関連する団体、地域社会との連携・協同など、具体的な方策などについても触れている。

本書は、これからの性教育を進めるうえで知っておきたい内容を包括的にまとめている好著である。

（教育ジャーナリスト　日向野一生）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、
Fax03-5801-6677でお寄せください。
〒101-0051　千代田区神田神保町1-3　冨山房ビル５階
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

日本性教育協会（JASE）移転のお知らせ

事務局と資料室を下記のとおり移転いたしました。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【記】

住 所　〒 101-0051　東京都千代田区神田神保町１－３　冨山房ビル５階

電 話　03-5801-6788　FAX 03-5801-6677

Email　info_jase@faje.or.jp（変更なし）

東京メトロ半蔵門線／都営新宿線／都営三田線「神保町」駅A７出口より徒歩3分

★「JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室」のお知らせ★

【開室日・時間】月～金曜日　しばらくの間 11: 00 ～ 17: 00

【新資料室の利用予約】必ず事前に電話で予約が必要です

TEL03-5801-6788

→資料室案内

主催：北東北性教育研修セミナー実行委員会　協賛：日本性教育協会　協力：NPO 法人レジリエンス　Broken Rainbow - japan

北東北性教育研修セミナー 2024「トラウマを考察する」

2024/02/23(fri) 13:00-17:00

@リンクステーションホール青森小会議室
〒030-0812 青森市堤町 1 丁目 4 番 1 号

＜第 1 部：無料　第 2 部：2,000 円＞
割引：学生、障害者 1,000 円

＜第 1 部＞13:00-14:40

講師：中島幸子さん

NPO 法人レジリエンス代表、米国法学博士、大学非常勤講師。
DV 被害にあった経験がきっかけとなり勉強を始め、2003 年に女性のための「こころの care 講座」をスタートさせ、「レジリエンス」を結成。同年、米国ソーシャルワーク修士号取得。全国各地で毎年多数の講演を行う。
主な著書に、「性暴力：その後を生きる」（レジリエンス、2011）、「マイ・レジリエンス：トラウマとともに生きる」（梨の木舎、2013）や共著に「傷ついたあなたへ＜ 1 ＞、＜ 2 ＞」（梨の木舎、2005、2010）、共訳に「DV・虐待加害者の実体を知る」（L. バンクロフト著、明石書店）など。

講演：「性暴力」が及ぼす影響

＜第 2 部＞15:00-17:00

「Team その子」　東北初上映！

映画上映 & トーク

あらすじ
解離性同一性障害（多重人格障害）を周囲に隠し日常生活を送る、その子。しかし、その子を守るために内部の人格達がそれぞれバラバラにおこなった行動が、周囲との摩擦を生み、その子を追いつめてしまう。人格たちとの葛藤と理解、そして和解の物語。
※この物語は、解離性同一性障害をかかえる方たちや、その周囲の方たちの経験を元に創作したフィクションです。特定の人物、団体等をモデルにしたものではありません。

『Team その子』上映＆解離性同一性障害を理解するトーク：

中島幸子（出演・監修）、友塚結仁（監督）

映画 CAST：野々村すずか、野崎紗矢、イワザキ、小林 瑠衣、水野 日頼、永野 和哉、越智 亮介、中島 幸子、こっぺさうるす、須藤 心悠、蜂丸 明日香、大野 やすひろ、安良田 愛斗、小川 響、斉藤 遼太郎、大権 早耶佳、高橋 良子、西木場 あかね、西山 さつき、水野 結
脚本／編集／監督　友塚 結仁　撮影／照明　大野やすひろ　衣裳制作　安良田 愛斗　ぬいぐるみ制作　高橋 良子　録音／記録／美術　岩澤 優希、小川 響、斉藤 遼太郎、鈴木 ゆき、須藤 心悠、大権 早耶佳、高橋 良子　協力　リトル s、中島 幸子、土佐 亜子、Yuko Dierkes、野崎 浩二、カワセ ミチヒロ　主題歌 『Re:　』作詞・作曲　夕凪　歌　野々村 すずか
監修　NPO 法人レジリエンス

申込み・問合せ：rc-net@goo.jp（北東北性教育研修セミナー実行委員会　岡田）
※当日、空席がある場合は申込みなく入場いただける場合もあります

▶▶ 2月2日(金)～4日(日)・9日(金)～11日(日) ◀◀

セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2024

おかえり多様性、人権を回復するためのつながりづくり

- セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育などに関する約18の分科会
- Web上での活動及び研究報告
- 全国のセクシュアルマイノリティの団体、当事者、アライ、専門家などのための交流会

方　法 オンライン／会場・オンラインハイブリッド開催※手話通訳・文字通訳あり

主催・問合せ先等

主　催：「セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2024」実行委員会
共　催：NPO法人QWRC、新設Cチーム企画
問合せ先等：https://sites.google.com/view/queertaikai2024/home

▶▶ 2月23日（土）～3月3日（日） オンライン配信 ◀◀

第14回　性の多様性を学ぶセミナー

主な講座内容・講師

※「第13回　性の多様性を学ぶセミナー」の講義を収録したものを配信

【プログラム】

講義① LGBTQのライフイベントの現状
講義② 性的指向と性自認の多様性に関する教員の意識と取り組みの実際
講義③『LGBTQの子を持つ親の調査』をひも解く

☆受講特典　日高教授の著作教材プレゼント『女子のためのザ・100アンサーズ』『ザ・100アンサーズ　Another ver.』

【講師】

日高庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

京都大学大学院医学研究科で博士号（社会健康医学）取得。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員、公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデントなどを経て現職。省庁や行政機関から一般企業まで、あらゆる領域にて性的指向と性自認の多様性に係る理解推進・啓発事業に従事している。

受講料・問合せ先等

主　催／一般社団法人日本家族計画協会
受講料／16,500円（税込）、申込み及びキャンセル期日2月14日（水）まで。
対象者／・保健師、助産師、看護師、養護教諭、教員、医師、ソーシャルワーカー、薬剤師などの専門職
　　　　・総務担当、行政関係者、人権擁護委員など性の多様性に関心のある方（受講に必要な資格はありません）
申込み方法／右のQRコード
　　　　または、https://jfpa.manaable.com/login/f671ad4d-7f2e-4421-aee4-7400c675844d/detail より

▶▶ 3月23日（土曜日）13：30～16：30 ◀◀

愛知県西尾市教育委員会　家庭教育特別講演会

大人と子どものハートフルな「生（いのち）」の会話

“いのちのはじまり”のこと“心とからだ”のこと

【プログラム】（予定）13:00 開場（受付開始）
13:30 ～ 13:40 クイズで考える「ジェンダーとセクシュアリティ」
13:40 ～ 14:10 ワークショップ「家庭で話してる？〝いのちのはじまり〟のこと」
14:10 ～ 14:30 ユネスコの包括的性教育：やさしい社会を作るために
14:30 ～ 14:50 産婦人科医に聞く：プレコンセプションケアとは？
14:50 ～ 15:10 助産師から見た：「いのちのはじまり」と人との絆
15:10 ～ 15:30 若者からのメッセージ：「女の子らしく」と言われて辛かった
15:30 ～ 15:40 会場のシェアタイム
15:40 ～ 15:50 休憩
15:50 ～ 16:30 Q & A

【登壇者】
小貫大輔（東海大学国際学部教授）、渥美治世（東海大学医学部助教・産婦人科専門医）、荒井英恵（府中の森土屋産婦人科助産師）、齊藤奈月（東海大学体育学研究科大学院生）

会　場　西尾市子育て・多世代交流プラザ１階 ふれあいホール（愛知県西尾市一色町一色前新田 195）※託児あり

参加費・問合せ先等

主　催：西尾市教育委員会　**共　催**：「性と文化」プロジェクト　**協　賛**：日本性教育協会（JASE）
参加費：無料　**定　員**：100 名（定員を超えた場合は市内在住在勤在学者を優先して抽選）
問合せ先：西尾市教育委員会事務局生涯学習課　TEL: 0563-55-3515（平日8:30 ～ 17:15）　FAX: 0563-56-7737
申込み期間：２月２日（金）～３月１日（金）
申込み先：①右の申込フォームを読み取り、WEBサイトから
②指定の申込用紙を生涯学習課または市内のふれあいセンター・公民館などの窓口へ提出

ＪＡＳＥ性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲覧予約】事前に電話で予約が必要〔tel 03-5801-6788〕。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日しばらくの間 11: 00 ～ 17: 00
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
https: //www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計･調査報告書、ジェンダー･フェミニズム、性教育一般･性教育の歴史的資料、セクソロジー、民俗学･文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集、ダイアモンド文庫、団体資料・手引き・白書（都道府県資料、大学関連資料、官公庁資料など）ほか。

→資料検索

https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy_N7GNQ_WQaeg

すぐ授業に使える

性教育実践資料集
中学校改訂版

〈主な内容〉

第１章　中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）

第２章　性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）

第３章　指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／８つの１年生の指導事例／６つの２年生の指導事例／６つの３年生の指導事例／７つの個別指導事例／５つの組織の指導事例）

第４章　参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

定価 2,200 円（税込）　B5 判・224 ページ

「若者の性」白書
第8回　青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

序　章　第８回「青少年の性行動全国調査」の概要
第１章　変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
第２章　青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
第３章　家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
第４章　知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
第５章　青少年の性行動と所属集団の性行動規範
第６章　青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
第７章　性的被害と親密性からの／への逃避
第８章　青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～

定価 2,420 円（税込）A ５判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会　　発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！